

ゲートキーパー養成講座 学生の自殺予防支援研修

系林 剛志（徳島大学 キャンパスライフ健康支援センター 助教）

講師略歴

公認心理師・臨床心理士。2004年に鳴門教育大学大学院を修了後、精神科および小児科の医療機関において、心理職としてカウンセリングや心理査定業務に従事。患者および家族への心理教育グループ、精神科アウトリーチ、職場内メンタルヘルス研修、自治体の発達相談、乳幼児健診などにも携わる。2023年より徳島大学キャンパスライフ健康支援センターに着任し、学生相談および職員相談を担当している。

プログラム概要

近年、若者の自殺率は上昇しており、大学生の自殺者数は400人を超えています。大学生は学業や就職活動、人間関係などで精神的不調を来しやすい一方で、一人暮らしの学生も多く、周囲の支援が届きにくく変化に気づかれにくい状況があります。

本プログラムでは、自殺のリスクがある学生に早期に気づき、適切な支援につなぐゲートキーパーとしての役割を担う教職員の養成を目的としています。具体的には、自殺に至る心理状態や危険因子・防御因子について解説し、学生の変化に気づく視点を養います。さらに、「気づく・声をかける・話を聴く・危険度を評価する・支援につなぐ」の5つのステップに基づき、ロールプレイを通して初期対応の方法を学び、実践的な傾聴スキルと対応力の習得を目指します。

過去の参加者からは、「実践的で雰囲気の良い講座だった」「対応の基本を学び安心した」などの感想が寄せられています。皆さまの参加をお待ちしております。

＊資料は印刷してご持参ください。

準備物・事前課題

筆記用具、資料（グループワークで使用するので、資料を印刷してご持参ください）

主な受講対象者

学生と関わるすべての教職員

到達目標

1. 学生の自殺に関する現状と特徴を説明できる
2. 自殺に至る心理状態および危険因子・防御因子を理解し、具体例を挙げられる
3. 学生の変化やサインに気づくための観察ポイントを把握できる
4. 「気づく・声をかける・話を聴く・危険度を評価する・支援につなぐ」の5つのステップに基づき、適切な初期対応を実践できる